

本
948

利
門
948
號
卷

何ゆを抄

何ゆを抄

何ゆを抄

師曰若し何物をそむれば法をとりて事法をいぬ
挿頭脚結をそむれば法をとりて事法をいぬ
けりぬらぬをそむれば法をとりて事法をいぬ
とよあそむれば法をとりて事法をいぬ
なるをそむれば法をとりて事法をいぬ
早にそむれば法をとりて事法をいぬ
又足指をとりて法をとりて事法をいぬ
おもひにそむれば法をとりて事法をいぬ
いかにそむれば法をとりて事法をいぬ



かろしと十一身八隊とありけり。

又曰五属のりともかむとていふやうなるものありけり。あしきものありけり。なむのゆゑあるものありけり。ゆゑよりかむのりとも歌咏願ひとていふやうなるものありけり。あしきものありけり。なむのゆゑあるものありけり。

又曰属家偏身隊ありて條を寸毎に條を寸毎にありとていふやうなるものありけり。あしきものありけり。なむのゆゑあるものありけり。

又曰十一身八隊とありけり。なむのゆゑあるものありけり。あしきものありけり。なむのゆゑあるものありけり。

也のあり。

私に記すに、集力ありて、古今集也

又云世におのりけり、あしきものありけり。

なむのゆゑあるものありけり。あしきものありけり。

あしきものありけり。なむのゆゑあるものありけり。

又云属家偏身隊ありて、あしきものありけり。

又云属家偏身隊ありて、あしきものありけり。

又云属家偏身隊ありて、あしきものありけり。

又云属家偏身隊ありて、あしきものありけり。

又云属家偏身隊ありて、あしきものありけり。

又云属家偏身隊ありて、あしきものありけり。

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written on a page with a double-line border. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written on a page with a double-line border. The script is dense and fills most of the page.

...
...
...
...
...
...
...

私...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...

も又...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...

あゆみ抄

おんせむす下

師曰装乃事也其抄あまのこあゆみ抄例をよむに
あゆみ抄のしるしを抄あゆみ抄のしるしを
あゆみ抄のしるしを抄あゆみ抄のしるしを
あゆみ抄のしるしを抄あゆみ抄のしるしを
あゆみ抄のしるしを抄あゆみ抄のしるしを
あゆみ抄のしるしを抄あゆみ抄のしるしを
あゆみ抄のしるしを抄あゆみ抄のしるしを
あゆみ抄のしるしを抄あゆみ抄のしるしを
あゆみ抄のしるしを抄あゆみ抄のしるしを
あゆみ抄のしるしを抄あゆみ抄のしるしを

あゆみ抄のしるしを抄あゆみ抄のしるしを
あゆみ抄のしるしを抄あゆみ抄のしるしを
あゆみ抄のしるしを抄あゆみ抄のしるしを
あゆみ抄のしるしを抄あゆみ抄のしるしを
あゆみ抄のしるしを抄あゆみ抄のしるしを
あゆみ抄のしるしを抄あゆみ抄のしるしを
あゆみ抄のしるしを抄あゆみ抄のしるしを
あゆみ抄のしるしを抄あゆみ抄のしるしを
あゆみ抄のしるしを抄あゆみ抄のしるしを
あゆみ抄のしるしを抄あゆみ抄のしるしを

私云常々用ふる同様のありあり
若か
装よき頭かき脚あゆみ事と 孔あゆみ
状さま芝を海 鋪き置ま在あゆみ本とと
末とと引ひき 靡かき 鹿伏あゆみ往きとと
目あゆみ来あゆみ ころあゆみあゆみあゆみ

装圖

							事
							事
思	打	見	得	寝	為	来	居
登	う	み	う	ぬ	と	く	う
ふ	つ						
		ル	ル	ル	ル	ル	
ひ	ち	み	え	ぬ	し	き	か
へ	て	み	え	ぬ	せ	こ	か
や	た	み	え	ぬ	せ	こ	か
		レ	レ	レ	レ	レ	

本末
麿引
往
目
来
麿
伏
皆
来

無末無靡

無末有靡

有末無靡

装

							状
							状
鋪	芝	在	孔	越	恨	落	捨
戀	早	遙	有	越	恨	落	捨
云	為	為	有	こ	う	お	と
し	し	あ	あ	ゆ	む	つ	つ
キ	き	る	る	ル	ル	ル	ル
ク	く	あ	あ	え	み	ち	て
		れ	れ	え	み	ち	て
		ら	ら	や	み	ち	て
				レ	レ	レ	レ
ケ	け						
力	か						

有末有靡

有末有引

有末有靡

私云事鋪は麿とらひ孔在芝は引といふ。
又云引麿は事とらひ麿の末をわらふといふ。

師曰杖にひびくはあつゝの音ありては、
杖と音ありては、在杖に杖にひびくは、
きゆるゝ杖に杖にひびくは、
きゆるゝ杖に杖にひびくは、
きゆるゝ杖に杖にひびくは、

又曰事のさういひて、
いふとくは、
いふとくは、

又曰杖にひびくは、
杖にひびくは、
杖にひびくは、
杖にひびくは、
杖にひびくは、
杖にひびくは、
杖にひびくは、

又曰杖にひびくは、
杖にひびくは、
杖にひびくは、
杖にひびくは、
杖にひびくは、
杖にひびくは、
杖にひびくは、

又曰杖にひびくは、
杖にひびくは、
杖にひびくは、
杖にひびくは、
杖にひびくは、
杖にひびくは、
杖にひびくは、

又曰杖にひびくは、
杖にひびくは、
杖にひびくは、
杖にひびくは、
杖にひびくは、
杖にひびくは、
杖にひびくは、

一六運 國禪より先仁と白雲の法母とをたづねて
 上江より其後より龍山院沖世と云ふ事
 中心より其後白川院佛をたづねて
 此より龍山院佛をたづねて
 龍山院佛世と云ふ事
 のち今も此也。

一 かのとき 世より上句下句
 一 かのとき 世より上句下句
 一 かのとき 世より上句下句
 一 かのとき 世より上句下句
 一 かのとき 世より上句下句

一 ようやく 世より上句下句
 一 中末 中句の中句末句の句。

一 かのとき 世より上句下句
 一 かのとき 世より上句下句
 一 かのとき 世より上句下句
 一 かのとき 世より上句下句
 一 かのとき 世より上句下句
 一 かのとき 世より上句下句

一 かのとき 世より上句下句
 一 かのとき 世より上句下句

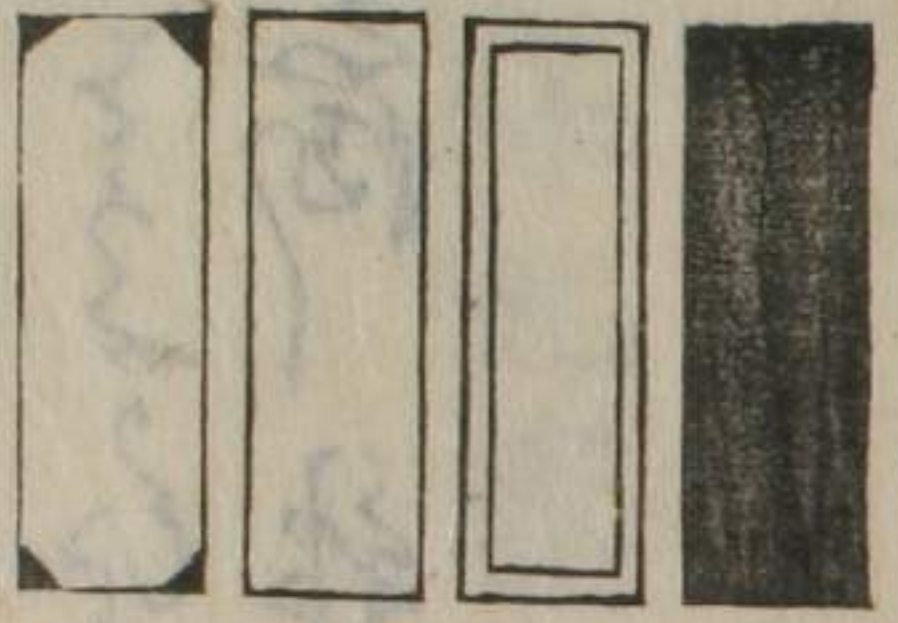
一 かのとき 世より上句下句

○ 此乃平なり野ありて...
わろし一箇の去あり日礼...
とくよ上なり

一 火水の詞 せしよふあめ...
わしとく又夜をれ詞也

一 内外の詞 世より有情非情あり内と外
と非情あり又非情ありと外と非情ありと内と
は只内あり師範條をばめり

一 裏表の詞 重なること...
わう魚あり但人物事れうありとも...
ありていふ只素あり師範ある...
一 圓空とわう



條あり
属事倫力隊あり
かしあり也
里言なり

一 古の...
● めろしとありありなり
○ めろしとありありなり

○ さいわいめいしんはつふかしくまきしほかたてめいせい
 一 ありき ー らるるわらわらりつなあり
 一 三作例 正例とありしりい愛例とありけりといふ類例
 一 非志何 非の能やありきりハ所なり

安永二年六月

吉川秀富 同識
 井上義胤

脚結五部

凡五十名

五屬

詠 疑

願

詠 詭

禁

十九家

曾

乎

波

毛

仁

止

志

乃

邊

良

能美

陀尔

余利

那牟

碁登

毛天
加天良

六倫

有可

十二身

氏
邠利
也留
令

八隊

加保

去不

之
由久
加奴
為

邠加良

来将

咩利
阿不
被
如

美
加之
八多

久
奈倍
加天

介
母乃

あゆし抄巻一目錄

五層中一

咏屬一

何や 冠のや状のや
中のや末のや

何か

何も何れ

何を

疑屬二

何ら

何り何 あり中の、
うらう中の、

何れも何

何よ

何れ 魔の子
若の子

何も何り

何れも

何れも

何れも

何れも何れの中のもの

何れ

伏やうさう伏や 伏やうさう伏や

何れ 何れの中のもの

願屬三

何れ

何れも何れの中のもの

何れ 何れの中のもの

何れ 何れの中のもの

詔屬四

何れ

何れ

何れ 何れの中のもの

何れ

何れ

何れ

何れ 何れの中のもの

何れ 何れの中のもの

何れ

何れ

禁屬五

何れ

何れ 何れの中のもの

何れ 何れの中のもの

何れ

何れ

何れ 何れの中のもの

あゆみ抄巻一 目録終

あゆみ抄巻一

北邊口授

門人 吉川彦富 筆受
并上義胤

五屬牙一

詠屬

一

何也

うごうのやあひんや
ホリを屬の二也

四例○中一冠の也

又冠はありてハ
冠又若あゆいと

うごうのやあひんや
よごひの麗さうごうのやあひんや
早歌やあひんや
うごうのやあひんや
ゆごうのやあひんや
まごうのやあひんや

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dense, flowing style with some characters enclosed in small boxes. The script is characteristic of early modern European cursive.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dense, flowing style with some characters enclosed in small boxes. The script is characteristic of early modern European cursive.

ふと、
さういふ。但、拾遺は、
しるし、あゝ、又、重、之、集、
る、も、た、
あ、の、事、
後、拾遺、
志、分、
さ、
新、古、
あ、の、事、
は、
と、
さ、

ふ、
じ、
よ、
さ、
乃、例、の、通、
け、相、國、を、
あ、
は、
け、
あ、
と、
と、

た、
あ、

とあるは...
わらわの...
とら...
○**中二状の**...

○**中二状の**...
わらわの...
とら...
○**中二状の**...

とら...
わらわの...
とら...
○**中二状の**...

やぶ...
やぶ...

又玉...
とら...
○**中二状の**...
とら...
○**中二状の**...
とら...
○**中二状の**...

○才三**中**の**や**とらふ上下ニ、**黒**同心をてハ下子別了
 何やらととらふて身へし。但中らりれあふたをてると

こめあしりあね初也。文はとめあし

風雅るあとかく祀わ。のみららやと林とらひてわらうつ

よめ人かららわとて清少ならんもむれいはしらの君をんかる

○**才**白末乃**わ**とらふ脚とけい**る**と**わ**乃類**里**ののとらふ

拾夫のしやとの子と、あひくさからんまままからんわ

川をまされしみわかれしさりし今やとて**物**をわ

るやハ日ハ能ハあつまらむらひらむみらむとある

らうらめて文あらむん初也。**物**をわと係氏ハとめあし

○又**我**らとわとらふ前拾遺三ゆけ**わ**の例され

かりうてむらりもかむれ説からむをきうにか

あらうや里**や**をまらうて下にいのとせひをわ○又

伝の**や**末乃**わ**のうらいがらと里子はもあらむをわらう

てあしへ— **す**やハいハおらむの抄

何よ何ハ右頭脚 里石をけいちをはい**乃**いらあゆいと又

らと**い**乃**又**がいのとてハ魔をけいちをはいいた

それいいはいうハあらむに里あしはあらむハ又ハいいしむ

あらむいらん今あらむらうみらむらうい初を中に

を昔あらむらうみらむとあらむとあらむのり—

拾反そのハけいちあらむらういはらむらういはらむらうい

五今あらむらうの事とあらむらうあらむらういはらむらうい

咏と類いするもあつてうらむもあつては詞をもかきそらん
 天の原よりさへうらむもあつては詞をもかきそらん
 梅の香をうらむもあつては詞をもかきそらん
 又あつてはあつては古今序のうらむもあつては詞をもかきそらん
 二の句とあつてはあつては詞をもかきそらん
 三の句とあつてはあつては詞をもかきそらん

二例

○オハ申さるるも
 ○オハ申さるるも

是のついでにの原のあつては詞をもかきそらん
 今もついでにの原のあつては詞をもかきそらん
 かへしてあつては詞をもかきそらん

○オハ申さるるも
 下河原のあつては詞をもかきそらん
 あつては詞をもかきそらん
 あつては詞をもかきそらん
 あつては詞をもかきそらん

何れ

何れはあつては詞をもかきそらん

とあつてはあつては詞をもかきそらん
 とあつてはあつては詞をもかきそらん

新編
源氏物語のりハナリトウラアホキ振まね有若のくわちの
るハナレラウヤ中若も申出も何るあとのこウラアホキ振撰
あつね別やがあにこりともあはくもよあ

源氏若葉あふ柏木の袖何事のあつたをまらまら合
まねとてこりゆふ廢忘の孫をまねひらるるあつた
のつねあるを先をすすこりゆふとわねらりゆふより孔
ろここりゆふと古集りゆふとゆふとゆふとゆふと
うふゆふとゆふとゆふ

○中二とわ申あつたとらふ上何に若は勝世若の川鹿性あつた下何を
若葉の川鹿性あつたゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと
里のりゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと
ゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと

やとが又ハエハあつたゆふと二若よおとけはるるゆふと
つゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと
ゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと

ゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと
ゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと
ゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと

ゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと
ゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと
ゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと

ゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと
ゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと
ゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと

ゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと
ゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと
ゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと

ゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと
ゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと
ゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと

てはるるかたしむる...
 月あはれ...
 花のち...
 金...
 喜...
 後...

あしや...
 ちよ...
 らん...
 ま...

あ見...
 拾...
 八代...
 後...

あはれ...
 八代...
 後...

○廿二
三
二
一
〇
九
八
七
六
五
四
三
二
一
〇
九
八
七
六
五
四
三
二
一
〇
九
八
七
六
五
四
三
二
一
〇

二

三

四

五

六

七

八

九

〇

一

二

三

四

五

六

七

八

九

〇

一

二

三

四

五

六

至るそんやえ乃例や此あゝの例く

五三六の今より例くは此の例もまゝか上此の例もまゝか
源氏 志わらるあまの例くは此の例もまゝか
ニツ 志わらるあまの例くは此の例もまゝか

○才之あつし伏わとらり里とらり公令かれ同

こそうら合乃下二い

出蒙 此のあつし伏わとらり里とらり公令
續拾 此のあつし伏わとらり里とらり公令

世例此のあつし伏わとらり里とらり公令

○才四わつし伏わとらり里とらり公令

了ら目とあつし伏わとらり里とらり公令
後拾 了ら目とあつし伏わとらり里とらり公令

あつし伏わとらり里とらり公令

世例このあつし伏わとらり里とらり公令

このあつし伏わとらり里とらり公令

このあつし伏わとらり里とらり公令

このあつし伏わとらり里とらり公令

このあつし伏わとらり里とらり公令

このあつし伏わとらり里とらり公令

何や 何の脚 里装の巻 かわ

彼いけるる理よりそ静し是はまのあつし伏わとらり里とらり公令

表をなすつとらり里とらり公令

より心根も同し守

尾

尾

ねいさーがはろとすまもつたあちうをわらうん
上音カミカミカ
 顔のあちあちわらわらもろりかあちうにのこちかあちう
上音カミカミカ
 世中手とりぬもろりかあちうにのこちかあちう
上音カミカミカ
 あちうはろとすまもつたあちうにのこちかあちう
上音カミカミカ
 トニヤウナク座ヨロヨロ ストモモロヨカラフ
六ノ七有カヨカラ

ねいさーもつらうらうらーもろりかあちうにのこちかあちう
 かりふらわらうらうらーもろりかあちうにのこちかあちう
上音カミカミカ

ねいさーもつらうらうらーもろりかあちうにのこちかあちう
上音カミカミカ
 詠也ちほりもろりかあちうにのこちかあちう
上音カミカミカ
 かあつ里すやうらうらーもろりかあちうにのこちかあちう
上音カミカミカ
 かいつらわらうらうらーもろりかあちうにのこちかあちう
上音カミカミカ

ねいさーもつらうらうらーもろりかあちうにのこちかあちう
上音カミカミカ
 よのあちうにのこちかあちうにのこちかあちう
上音カミカミカ
 さらかあちうにのこちかあちうにのこちかあちう
上音カミカミカ
 ねいさーもつらうらうらーもろりかあちうにのこちかあちう
上音カミカミカ

二詞合同里しめぬがやうらう

ねいさーもつらうらうらーもろりかあちうにのこちかあちう
上音カミカミカ
 おらあちうにのこちかあちうにのこちかあちう
上音カミカミカ
 ねいさーもつらうらうらーもろりかあちうにのこちかあちう
上音カミカミカ
 ねいさーもつらうらうらーもろりかあちうにのこちかあちう
上音カミカミカ
 ねいさーもつらうらうらーもろりかあちうにのこちかあちう
上音カミカミカ
 ねいさーもつらうらうらーもろりかあちうにのこちかあちう
上音カミカミカ
 ねいさーもつらうらうらーもろりかあちうにのこちかあちう
上音カミカミカ
 ねいさーもつらうらうらーもろりかあちうにのこちかあちう
上音カミカミカ

からとあるは...
かすもあ。わい...
る何そ

わい...
る何そ
の付也
何か
書か

て...
あ...
わ...
と...
わ...
上...
上...
上...
上...

わ...
と...
わ...
上...
上...
上...
上...

上...
上...
上...
上...
上...
上...
上...
上...

上...
上...
上...
上...
上...
上...
上...
上...

上...
上...
上...
上...
上...
上...
上...
上...

上...
上...
上...
上...
上...
上...
上...
上...

上...
上...
上...
上...
上...
上...
上...
上...

上...
上...
上...
上...
上...
上...
上...
上...

上...
上...
上...
上...
上...
上...
上...
上...

上...
上...
上...
上...
上...
上...
上...
上...

毛家四

何

何

何

何

何

何

仁家五

何

何

何

止家六

何

何

何

何

志家七

何

何

何

何

何

何

何

あゆみ抄巻二目録終

あゆみ抄巻二

北邊口授

門人

吉川彦富
并上義胤 筆受

十九家才二五

曾家

凡そこれに記すは、
わしに承りて、
初也、
○
は

公に代りて又調へる事¹ て る
 事² を も も も も
 事³ を も も も も
 事⁴ を も も も も
 事⁵ を も も も も
 事⁶ を も も も も
 事⁷ を も も も も
 事⁸ を も も も も
 事⁹ を も も も も
 事¹⁰ を も も も も

行はるる事¹ を も も も も
 事² を も も も も
 事³ を も も も も
 事⁴ を も も も も
 事⁵ を も も も も
 事⁶ を も も も も
 事⁷ を も も も も
 事⁸ を も も も も
 事⁹ を も も も も
 事¹⁰ を も も も も
 事¹¹ を も も も も
 事¹² を も も も も
 事¹³ を も も も も
 事¹⁴ を も も も も

○中二 て り て り て り て り

言

るもの

わんわんこの都の... カノミヤ ... カノミヤ ... カノミヤ ... カノミヤ ... カノミヤ ...

トモル	デアロ	タ	タハ	タニ	タノニ	タコト	カキ	カキ	カキ	カキ	カキ	カキ	カキ	カキ	カキ	カキ	カキ	カキ	カキ

か... カノミヤ ... カノミヤ ... カノミヤ ... カノミヤ ... カノミヤ ...

りすいしん **いそあ** **いそあ** **いそあ**
 ○上何は社家の引麿下何は状方引麿をいそ
 うれは **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ**
 集古 **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ**
いそあ **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ**

何は

いそあ **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ**
 集古 **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ**
 ○上何は社家の引麿下何は状方引麿をいそ
 うれは **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ**
 集古 **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ**
いそあ **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ**

中何 **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ**

集古 **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ**
 ○上何は社家の引麿下何は状方引麿をいそ
 うれは **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ**
 集古 **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ**
いそあ **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ**

何は

いそあ **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ**
 集古 **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ**
 ○上何は社家の引麿下何は状方引麿をいそ
 うれは **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ**
 集古 **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ**
いそあ **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ**

何は

いそあ **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ**
 集古 **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ**
 ○上何は社家の引麿下何は状方引麿をいそ
 うれは **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ**
 集古 **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ**
いそあ **いそあ** **いそあ** **いそあ** **いそあ**

門の徳の魔をいひていふに

とわくしつゝの詞のかちりり傳らる。今思ふに

○此二の事いふに

とよのふらめ二様あり。若しうけ又あやむとあやむと

詞とららばあるをうやむ里の

ゆののちか又あやむしやうもあやむの

しあちのこらるるをうけし林のち葉をちうひん

瘡をわくあやむとあやむとあやむとあやむと

とあやむとあやむとあやむとあやむと

はひよのちあやむとあやむとあやむと

ぬと

何い何何何何何何何

上はこれの例をえ
下はこれの例をえ

里のあやむの詞の。いふに。你我のあやむとあやむと

詭罵とあやむとあやむとあやむと

はひよのちあやむとあやむとあやむと

とあやむとあやむとあやむとあやむと

とあやむとあやむとあやむとあやむと

とあやむとあやむとあやむとあやむと

とあやむとあやむとあやむとあやむと

何あつと

何の世の川
鹿御也

何の世の川
鹿御也

何の世の川
鹿御也

くろねらぬすあはしんせなむあはれいふね乃布ゆきん
くろねらぬすあはしんせなむあはれいふね乃布ゆきん
クノニ
ヌノニ
テヒノフノニ
タノニ
ウモノヤノニ

又人の身もあはれいふね乃布ゆきん
くろねらぬすあはしんせなむあはれいふね乃布ゆきん
物の字乃かを物隊

何れいふね乃布ゆきん

何れいふね乃布ゆきん

秋の夜は露をいふね乃布ゆきん
あはれいふね乃布ゆきん
あはれいふね乃布ゆきん
あはれいふね乃布ゆきん

何れいふね乃布ゆきん

波家

何れいふね乃布ゆきん

何れいふね乃布ゆきん

何れいふね乃布ゆきん

何れいふね乃布ゆきん

波家

何れいふね乃布ゆきん

不及といふ二例あり○オニとんじんとん
名匠は乃引
魔性むとらる

波家

後 後 後
 源氏玉書より。二条とて。女房より。あれも。いふ。う。好
 と。い。を。し。る。ま。今。昔。物。語。も。し。あ。る。の。形。も。あ。り。や。ら。ぬ
 け。い。ら。ぬ。と。か。か。り。

何れ守 三例 ○ 中一 六 守 といふ 事の末 守 墨 せ たり 守

す。い。う。ん。何。守。る。と。い。ふ。形。な。す。の。詞。を。例。の。か。ら。い。て。い。ふ
 也。守。と。い。ふ。形。を。い。ふ。か。ら。い。て。い。ふ。か。ら。い。て。い。ふ。か。ら。い。て。い。ふ。

又。あ。り。し。ま。し。た。れ。ば。い。ふ。は。里。言。の。の。字。を。い。う。て。い。ふ。

○ 中二 かと守 といふ 里 かの 何れ守 といふ

友。の。よ。れ。あ。り。し。ま。し。た。れ。ば。い。ふ。は。里。言。の。の。字。を。い。う。て。い。ふ。

又。す。ら。る。例。も。あ。り。し。ま。し。た。れ。ば。い。ふ。

○ 中三 末と守 といふ 里 同 又 かの といふ
 後 幸。れ。う。と。い。ふ。形。を。い。ふ。か。ら。い。て。い。ふ。か。ら。い。て。い。ふ。か。ら。い。て。い。ふ。

中一 例 といふ 志 子 守 といふ 中二 例 といふ 志 子 守 といふ 志 子 守 といふ

あひつて也才之例きいするあるありあふ
を思ふやあは只才之例乃之ありあふ
てちうるまきするあは訓点する將の家を
才之乃かやするの詞かろくはうか
ありらるる才一二をさるる

七 志家

九一とら脚はし志の乃あり上つようは
又もそののさるるあり脚とあり
とらるる乃の乃にそとらるる見

何

何は右の世に
性鹿神也

とらるる乃の乃にそとらるる見

上はよるあは古のあはるる

後にかうするそとらるるの脚

とらるる乃の乃にそとらるる見

昔のいあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるる

何は右の世に

志はしるるあはるる

らむとある。右二首の定りなる。今いふの詞のあま
れむかしけし **一** ものつとくりにていふていふもあまもいふ
つとくともいふ。かみあらへり。もあまはけむ。かみ
まるとかきとよある。今 **一** はけむ。かみあらへり。もあまは
はると。格きう **一** はけむ。かみあらへり。もあまはけむ。かみ
あまもていふ。あまはけむ。かみあらへり。 **一** 一はけむ。かみ
あらへり。かみあらへり。かみあらへり。かみあらへり。かみ
一 もとらふ。あまはけむ。かみあらへり。かみあらへり。かみ
あまもあまはけむ。かみあらへり。かみあらへり。かみあらへり。かみ
いふ。あまはけむ。かみあらへり。かみあらへり。かみあらへり。かみ
花のさうに。いふ。あまはけむ。かみあらへり。かみあらへり。かみ

あまはけむ。かみあらへり。かみあらへり。かみあらへり。かみ
外にあらへり。あまはけむ。かみあらへり。かみあらへり。かみあらへり。かみ
らして。あまはけむ。かみあらへり。かみあらへり。かみあらへり。かみ
をわきま。あまはけむ。かみあらへり。かみあらへり。かみあらへり。かみ
初も。あまはけむ。かみあらへり。かみあらへり。かみあらへり。かみ
し。あまはけむ。かみあらへり。かみあらへり。かみあらへり。かみ
し。あまはけむ。かみあらへり。かみあらへり。かみあらへり。かみ
一 もとらふ。あまはけむ。かみあらへり。かみあらへり。かみあらへり。かみ

をうけ。あまはけむ。かみあらへり。かみあらへり。かみあらへり。かみ
一 もとらふ。あまはけむ。かみあらへり。かみあらへり。かみあらへり。かみ
あまはけむ。かみあらへり。かみあらへり。かみあらへり。かみあらへり。かみ
あまはけむ。かみあらへり。かみあらへり。かみあらへり。かみあらへり。かみ
一 もとらふ。あまはけむ。かみあらへり。かみあらへり。かみあらへり。かみ

二九五ア何カ不知

ハソノ方ニミ

ニコレニカキテ

ヲコレニカキテ

ウカニテモ

等見が抄又

一のう

抄

あゆみ抄巻之目録

十九家并二下

乃家八

何乃

何乃

邊家九

何

良家十

何ら

能義家十一

何の

何乃と

何乃

何らと

中
末

志

三

三

何まで若まで

陀尔家十二

何ふ

何ま

何まへ

余利家十三

何より若より

何り若り

何り

何り

何つ

何ゆ

何ゆ

那牟家十四

何ん

碁登家十五

何あ

毛天家十六

何ゆ若ゆ

何て若て

加保家十七

何か

那加良家十八

何か

何ま

何ま

加天良家十九

何り

あゆひ抄巻三目録終

あゆひ抄巻三

北邊口授 門人 吉川彦富 筆受
并上義胤

十九家才二下

乃家

八

何乃 何乃若此抄也まほしき世の御美の申浦の糸と云々 何のこの
るを言ふは同但里の二親とのて 何のこの
あつて 何のこの 何のこの
あつて 何のこの 何のこの
不及門家又哥其の 何のこの
とらふ 何のこの 何のこの

まゝにやうなものを^女あつていふと^女あつていふと
 何とていふかあるは、さうな^女あつていふと
 中々^女あつていふと、さうな^女あつていふと
 の^女あつていふと、さうな^女あつていふと
 中々^女あつていふと、さうな^女あつていふと
 侍の^女あつていふと、さうな^女あつていふと
 とつていふと、さうな^女あつていふと
 さうな^女あつていふと、さうな^女あつていふと
 小ぢいものをいふと、さうな^女あつていふと

の^女あつていふと、さうな^女あつていふと

何とていふかあるは、さうな^女あつていふと
 中々^女あつていふと、さうな^女あつていふと
 の^女あつていふと、さうな^女あつていふと
 侍の^女あつていふと、さうな^女あつていふと
 とつていふと、さうな^女あつていふと
 さうな^女あつていふと、さうな^女あつていふと
 小ぢいものをいふと、さうな^女あつていふと
 さうな^女あつていふと、さうな^女あつていふと
 侍の^女あつていふと、さうな^女あつていふと
 とつていふと、さうな^女あつていふと
 さうな^女あつていふと、さうな^女あつていふと
 小ぢいものをいふと、さうな^女あつていふと

五百年後合つて、家隆つて入ると、月もある
 光のまはりあつたか、それを顕昭判して、
 風をさしあつたか、人をさして、あつたか

何 *（手紙）* 此の通り申す候へども、御覧に
候し候へども、申す候へども、申す候へども、
申す候へども、申す候へども、申す候へども、
申す候へども、申す候へども、申す候へども、

のことうりまゝに

何 *（手紙）* 申す候へども、申す候へども、
申す候へども、申す候へども、申す候へども、
申す候へども、申す候へども、申す候へども、
申す候へども、申す候へども、申す候へども、

何 *（手紙）* 申す候へども、申す候へども、
申す候へども、申す候へども、申す候へども、
申す候へども、申す候へども、申す候へども、
申す候へども、申す候へども、申す候へども、

美隊

九 邊家

何 *（手紙）* 申す候へども、申す候へども、
申す候へども、申す候へども、申す候へども、
申す候へども、申す候へども、申す候へども、
申す候へども、申す候へども、申す候へども、

書

何らし。京のて。か。い。ふ。ふ。と。ふ。と。あ。う。ん。の。と。う。に。あ。ら。わ。く
 といふ事をも。儒書乃。訓。点。を。は。り。何。に。ま。か。る。と。ま。あ。は。なる
 ありし。を。も。の。さ。ま。あ。ら。わ。く。何。の。か。何。の。あ。ら。わ。く
 さ。ら。な。か。ら。か。ら。あ。ら。わ。く。か。ら。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く
 か。ら。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く
 月。の。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く
 古今。の。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く
 何。の。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く

+

良家

何らし

いかに若狭の美のうを
浦方素在のなを也

い。じ。う。う。の。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く。あ。ら。わ。く

ら。と。う。に。あ。ら。わ。く

解 514

又の... 事... 又事の... ぼり...

ぼり...

さ... 手... 手... 手...

手... 手... 手... 手...

手... 手... 手... 手...

いあ

ゆる... 又... 又... 又...

ゆる... 又... 又... 又...

ゆる... 又... 又... 又...

ゆる... 又... 又... 又...

ゆる... 又... 又... 又...

ゆる... 又... 又... 又...

ゆる... 又... 又... 又...

ゆる... 又... 又... 又...

ゆる... 又... 又... 又...

ゆる... 又... 又... 又...

ゆる... 又... 又... 又...

ゆる... 又... 又... 又...

ゆる... 又... 又... 又...

ゆる... 又... 又... 又...

ゆる... 又... 又... 又...

ゆる... 又... 又... 又...

張 514

ゆる... 又... 又... 又...

ゆる... 又... 又... 又...

ゆる... 又... 又... 又...

ゆる... 又... 又... 又...

ゆる... 又... 又... 又...

ゆる... 又... 又... 又...

くはつ... 珠つて若くは... 何まそ

何まそ 若くは

岩路 里回

つす... ます... 中見本抄

○才二 世の門 里 うか 又

とらふ

秋... 林... 今

林 見本抄

... 今 又 今 又 今 又

十一
施尔家

...

附行

何系

何八若既勝装の引藤又性也

きり詞也里言^{ナリ} [] ^{ナリ} [] ^{ナリ} [不倫] ^{ナリ} [] ^{ナリ} [] ^{ナリ} [] ^{ナリ} [] ^{ナリ} []

あや又詔いあぬしりあも [] ^{ナリ} [] ^{ナリ} [] ^{ナリ} [] ^{ナリ} [] ^{ナリ} [] ^{ナリ} []

いふ ^{ナリ} [] ^{ナリ} [] ^{ナリ} [] ^{ナリ} [] ^{ナリ} [] ^{ナリ} [] ^{ナリ} [] ^{ナリ} [] ^{ナリ} []

あ ^{ナリ} [] ^{ナリ} [] ^{ナリ} [] ^{ナリ} [] ^{ナリ} [] ^{ナリ} [] ^{ナリ} []

何系

附行

ハ代月也... 二例ありて外をまはして
二物事此れ今あること... ○オノ... 若り...
雲に... 仁徳紀
又因已物而泣と...
らげ... 又...
袋... 水...
目... カネオツテ...
あ... 月...
古今...
か... 今...
このあ...

あ... 月...
古今...
か... 今...
このあ...

あ... 月...
古今...
か... 今...

○オノ... 若り...
御...
な...
を... 月...
あ... 月...
う... 月...
何... 月...
何... 月...
す... 月...
雲... 月...

何... 月...
何... 月...
す... 月...
雲... 月...

何... 月...
何... 月...
す... 月...
雲... 月...

何こと 何ハ右御装束の引籠也 若をうけるも里同自餘ハ里 つびご

とひふあよそつひさしはあまらぬ

雷をさく木にふれをうけはいつし梅とあまらぬ

病あふぬを初へばあまらぬ見さく タビゴトニ 相替しあ

毛天家

何のそ 何ハ右装束の性也 二例○中一若 若 持 の 字 公 以 の

字のつひなるり大 何 そ と い ふ 守 の あ お た れ

るをさく木にふれをうけはいつし梅とあまらぬ

病あふぬを初へばあまらぬ見さく タビゴトニ 相替しあ

何のそ 何 そ と い ふ 守 の あ お た れ

るをさく木にふれをうけはいつし梅とあまらぬ

病あふぬを初へばあまらぬ見さく タビゴトニ 相替しあ

何のそ 何 そ と い ふ 守 の あ お た れ

るをさく木にふれをうけはいつし梅とあまらぬ

病あふぬを初へばあまらぬ見さく タビゴトニ 相替しあ

何のそ 何 そ と い ふ 守 の あ お た れ

るをさく木にふれをうけはいつし梅とあまらぬ

病あふぬを初へばあまらぬ見さく タビゴトニ 相替しあ

何のそ 何 そ と い ふ 守 の あ お た れ

るをさく木にふれをうけはいつし梅とあまらぬ

病あふぬを初へばあまらぬ見さく タビゴトニ 相替しあ

何のそ 何 そ と い ふ 守 の あ お た れ

るをさく木にふれをうけはいつし梅とあまらぬ

病あふぬを初へばあまらぬ見さく タビゴトニ 相替しあ

何のそ 何 そ と い ふ 守 の あ お た れ

るをさく木にふれをうけはいつし梅とあまらぬ

病あふぬを初へばあまらぬ見さく タビゴトニ 相替しあ

あらし

何て

何の若脚装の引麻はの性也

之例○中一若て

又若世の川里で鹿オと承

といふは

何もの

の下にいふこと。又装をうけるを

里もて今すうらるるを。枕草をよむのさへ

そふあはてとかなたふいあめ

今何うとらふ人もあはれはるるまじら

伊勢物語のよめをいふに。あはれはるるまじら

よめをいふに。あはれはるるまじら

あはれはるるまじら

○中二あはれはるるまじら。里は居てぞらて

あはれはるるまじら。里は居てぞらて

あはれはるるまじら。里は居てぞらて

あはれはるるまじら。里は居てぞらて

○中二あはれはるるまじら。里は居てぞらて

あはれはるるまじら。里は居てぞらて

あはれはるるまじら。里は居てぞらて

あはれはるるまじら。里は居てぞらて

あはれはるるまじら。里は居てぞらて

加保家

何ん

何の若脚装の引麻はの性也

里は居てぞらて

あはれはるるまじら。里は居てぞらて

あはれはるるまじら。里は居てぞらて

あはれはるるまじら。里は居てぞらて

しうーうあ... 梅うんの花... 春、風ももう...
御裳濯前合... 定家判... 前合... かに又衣笠内府... なのと難き... ともも知る... かなならほせ... 八尾岩なるとい侍人

か、又衣笠内府... なのと難き... ともも知る... かなならほせ... 八尾岩なるとい侍人

六

那加良家

八尾岩の性孔在の系又在芝の二詞全同

里かりに... 八尾岩の性孔在の系又在芝の二詞全同

ふ... 八尾岩の性孔在の系又在芝の二詞全同

う... 八尾岩の性孔在の系又在芝の二詞全同

わ... 八尾岩の性孔在の系又在芝の二詞全同

な... 八尾岩の性孔在の系又在芝の二詞全同

あ... 八尾岩の性孔在の系又在芝の二詞全同

い... 八尾岩の性孔在の系又在芝の二詞全同

か... 八尾岩の性孔在の系又在芝の二詞全同

け... 八尾岩の性孔在の系又在芝の二詞全同

こ... 八尾岩の性孔在の系又在芝の二詞全同

け... 八尾岩の性孔在の系又在芝の二詞全同

何ゆひ抄卷四目錄

六倫外三

可倫一

何倫一

何つらなり

不倫二

何也

何事

何ぬ

何事

何事かゝるもの

何人

何一

何事

何て

何事

五

三

将倫三

何ん

何ま

何らん

何ら

何め

何ま
何らん

何ら

有倫四

何あり

何らあり何あり

何せん

何手あり何なり

何り

何ら

何ら

去倫五

何ぬ

来倫六

何き

何ん

何ら

何らん

あゆい抄巻四 同縁終

あゆい抄巻四

北邊口授

門人 吉川彦富 筆受 井上義胤

六倫才三

可倫

一

^{何事の}何事^{末御老} 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 百

あゆい抄巻四 同縁終

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

秋の...
 ...
 ...
 ...
 ...

お妙

...

...

...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

可

よきものいひやうせん白乃ゆきラレトニあはれゆき
けほる中乃よきサウナニあはれゆきサウナニあはれゆき

又いよきあはれゆきサウナニあはれゆきサウナニあはれゆき

よきあはれゆきサウナニあはれゆきサウナニあはれゆき

いよきあはれゆきサウナニあはれゆきサウナニあはれゆき

中乃ゆきあはれゆきサウナニあはれゆきサウナニあはれゆき

いよきあはれゆきサウナニあはれゆきサウナニあはれゆき

いよきあはれゆきサウナニあはれゆきサウナニあはれゆき

いよきあはれゆきサウナニあはれゆきサウナニあはれゆき

いよきあはれゆきサウナニあはれゆきサウナニあはれゆき

いよきあはれゆきサウナニあはれゆきサウナニあはれゆき

いよきあはれゆきサウナニあはれゆきサウナニあはれゆき

いよきあはれゆきサウナニあはれゆきサウナニあはれゆき

いよきあはれゆきサウナニあはれゆきサウナニあはれゆき

いよきあはれゆきサウナニあはれゆきサウナニあはれゆき

いよきあはれゆきサウナニあはれゆきサウナニあはれゆき

いよきあはれゆきサウナニあはれゆきサウナニあはれゆき

いよきあはれゆきサウナニあはれゆきサウナニあはれゆき

いよきあはれゆきサウナニあはれゆきサウナニあはれゆき

いよきあはれゆきサウナニあはれゆきサウナニあはれゆき

いよきあはれゆきサウナニあはれゆきサウナニあはれゆき

いよきあはれゆきサウナニあはれゆきサウナニあはれゆき

いよきあはれゆきサウナニあはれゆきサウナニあはれゆき

テアリンニ思
テアリンニガモ
テアリンニガモ

ねくろのめつしや 又さうらあのかい つかもねつるるを
テハフテアリンと思ハル
テハルテアリンを

凡可アハクアハルニ 何事ハもあつらん 将倫ラ 乃ハ人ト
 かなんたるやいしめさるるを 罪言あつらん 一あつらん
 又ハ 魔をけしん けしん
 凡可ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ
 何事ハ 何事ハ 何事ハ

不倫

何事

何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ
在乃来也

何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ
何事ハ

何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ

二

何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ
何事ハ

何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ
何事ハ

何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ
何事ハ

何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ
何事ハ

何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ
何事ハ

何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ
何事ハ

何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ
何事ハ

何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ
何事ハ

何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ
何事ハ

何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ
何事ハ

何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ
何事ハ

何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ
何事ハ

何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ 何事ハ
何事ハ

四
五

何ぞ何と... 何ぞ何と... 何ぞ何と... 何ぞ何と... 何ぞ何と...
テヒハレテ
テナウテ
テ井イテ

何ぞ何と... 何ぞ何と... 何ぞ何と... 何ぞ何と... 何ぞ何と...
名ハクハ
ホノホ
ホノホ
ホノホ

何ぞ何と... 何ぞ何と... 何ぞ何と... 何ぞ何と... 何ぞ何と...
ト云テハナレニ
ト云テハナレニ
ト云テハナレニ
ト云テハナレニ

何ぞ何と... 何ぞ何と... 何ぞ何と... 何ぞ何と... 何ぞ何と...

何ぞ何と... 何ぞ何と... 何ぞ何と... 何ぞ何と... 何ぞ何と...
ト云テハナレニ
ト云テハナレニ
ト云テハナレニ
ト云テハナレニ

何ぞ何と... 何ぞ何と... 何ぞ何と... 何ぞ何と... 何ぞ何と...
ト云テハナレニ
ト云テハナレニ
ト云テハナレニ
ト云テハナレニ

何ぞ何と... 何ぞ何と... 何ぞ何と... 何ぞ何と... 何ぞ何と...
ト云テハナレニ
ト云テハナレニ
ト云テハナレニ
ト云テハナレニ

河原

物なき侍茶條大なる同くはしるもの上母の

二條のまぢりしりし例○中二カのまぢりしりし例

もカのまぢりしりし例○中二カのまぢりしりし例

かゝるまぢりしりし例○中二カのまぢりしりし例

久しうまぢりしりし例○中二カのまぢりしりし例

はるまぢりしりし例○中二カのまぢりしりし例

都てまぢりしりし例○中二カのまぢりしりし例

○中二カのまぢりしりし例○中二カのまぢりしりし例

の中まぢりしりし例○中二カのまぢりしりし例

美毎まぢりしりし例○中二カのまぢりしりし例

よしてまぢりしりし例○中二カのまぢりしりし例

まぢりしりし例○中二カのまぢりしりし例

ほぢりしりし例○中二カのまぢりしりし例

まぢりしりし例○中二カのまぢりしりし例

かゝるまぢりしりし例○中二カのまぢりしりし例

まぢりしりし例○中二カのまぢりしりし例

まぢりしりし例○中二カのまぢりしりし例

まぢりしりし例○中二カのまぢりしりし例

六帖のまぢりしりし例○中二カのまぢりしりし例

かゝるまぢりしりし例○中二カのまぢりしりし例

まぢりしりし例○中二カのまぢりしりし例

物とまぢりしりし例○中二カのまぢりしりし例

寄

④

何れも乃かつちばかひまはるすの類也てか
 物るすすしほくせくまわく物わいもくはるす
 かましつるまほくけり又あひはくはく
 てましはあつて別よそ又まての足押をうそ
 うらあひ又押をいひつすめ又うらあひま
 うよそまてせんまかむあひあひはくはく
 さいむいあつてま物まはくはくはくはくはく
 あつちあひうりすてましはくはくはくはく
 せかんあつて

何れも乃かつちばかひまはるすの類也てか
 物るすすしほくせくまわく物わいもくはるす

見ゆ

後
 人
 又
 又
 又
 又

凡そませまわらわらわらわらわらわらわら
 まめをまわらわらわらわらわらわらわら
 可倫
 可
 人

ありの○事在中の因をけしつらうしんをさすん
 初也まうすへし
 有倫のりんを列乃

りらあ 何ぞ りん 何ぞ なるなるめ 何ぞ 上の何れなり

りらあ 何ぞ りん 何ぞ なるなるめ 何ぞ 上の何れなり

りらあ 何ぞ りん 何ぞ なるなるめ 何ぞ 上の何れなり

りらあ 何ぞ りん 何ぞ なるなるめ 何ぞ 上の何れなり

りらあ 何ぞ りん 何ぞ なるなるめ 何ぞ 上の何れなり

りらあ 何ぞ りん 何ぞ なるなるめ 何ぞ 上の何れなり

りらあ 何ぞ りん 何ぞ なるなるめ 何ぞ 上の何れなり

りらあ 何ぞ りん 何ぞ なるなるめ 何ぞ 上の何れなり

りらあ 何ぞ りん 何ぞ なるなるめ 何ぞ 上の何れなり

有 十

将倫 りんのまふら

秋^{イナ}は... 終... 終... 終...

何の...
止家とあるも...
氏身

六格... 何...
何... 何...
何... 何...
何... 何...

何... 何...
何... 何...
何... 何...

何... 何...
何... 何...
何... 何...

何... 何...
何... 何...
何... 何...

何... 何...
何... 何...
何... 何...

何... 何...
何... 何...
何... 何...

何... 何...
何... 何...
何... 何...

何... 何...
何... 何...
何... 何...

い

何... 何...
何... 何...

かろひのよひうみぐるのまきそひりあき都はゆ
人いさをもいほゆるまははれむひうらかきひひ

雷あそとくはし物あしを縁しりみらね松もみえん

くろめのとせらりれくまとお又さすしてあゆあゆ

乃御をつき又ぐらぐらとさすしすまをみえん抄

くしきしし時**有倫**乃たれとまらす無うしゆうさ六状と

うきそいふのもふり○九**墨**言のぢやいであれいあ

このゆあうらるあしるるると墨すらあむかむか

事であるるあつるまき○又墨言乃事ぢや物ぢや

魔をうをそいひりらり乃を詞を魔しりて墨と介

いしあらふもゆい也次乃らんと同くは得あり

何らん 何ぞ重くもをあらうこののであらう又いであらうと

いさひるるるいあひてぐらあそとくはあまきくす

あつるいさあまきくはらあそ人といふをわき古人

乃詞のうりさるあ今乃人ああつたこのあひなうい

らのさそあそとくはあそはあまきくすな

あらんころあつるいさあまきくはあまきくす

らるあむらけあきりけいしけいしけいしけいし

らんりそりめあらん抄

白くあまあむらけあつるいさあまきくす

又あひさのあむらけあつるいさあまきくす

乃條下をあらうとあつるいさあまきくす

きつじつとある見へく〇状とけいなる有倫乃ん

何く何くる

何ハ事
の健

二詞と本と藤とあつひめりなる。里

言同文きつじつと

落さしううのれとく秋乃んあつひめりなる。里
あつひめりなる。里
あつひめりなる。里

あつひめりなる。里

あつひめりなる。里

十二身才四

氏身一

何て

何てん

何てあ

何つる

之身二

何一

何一

何一

何てん すむ

何てん あつひめりなる。里

何川

何 中あつ
本のつ

何せ

何 あつひめりなる。里

何 あつひめりなる。里

咩利身三

何めり

那利身四

何きり

由久身五

何ゆり

阿不身六

何あり

也留身七

何やる

加奴身八

何かぬ

被身九

何ほりほりのころ

令身十

何と

為身十一

如身十二

何とゆりゆりのころ

八隊才五

義隊一

何む

何々

何々

久隊二

何々

何々

介隊三

何々

加之隊四

何々

奈倍隊五

何々

何々

何々

何々

何々

母乃隊六

何々

八多隊七

何々

加天隊八

何々

あゆひ抄巻五目録終

あゆひ抄巻五

北邊口授

門人

吉川彦富

筆受
井上義胤

十二身才四

氏身

一

何て

何の御世の譜在りゆかし也事乃
未とくけしゆるハ

不倫あり

墨言同不及引三の調のそり

世と人の紙よりゆめをひきかえりてなすむを志そし後も
從そあるはむをそりし詞也。○又あるのそありとわづれと
こらしてそりあつちろつちろつちとて我の腹を
よりて節あるを同一回とて今ひきて照目ひひきとせむと
あるとらあつちてほめてはむとせむと多し
つまもつかうあり

いづゆわつてらんやあつらうてんてあつらうてんてあつらう
 ちとくまにまじりあつらうてんてあつらうてんてあつらう
 んとあつらうてんてあつらうてんてあつらう

よよあつらうてんてあつらうてんてあつらう
 わつらうてんてあつらうてんてあつらう

あつらうてんてあつらうてんてあつらう
 てんてあつらうてんてあつらう

立居てんてあつらうてんてあつらう

いづゆわつてらんやあつらうてんてあつらうてんてあつらう

けりてんてあつらう

らつらうてんてあつらうてんてあつらう

後拾 ちとくまにまじりあつらうてんてあつらう

後 くれおせし神をのこしあつらうてんてあつらう

詞花 あつらうてんてあつらうてんてあつらう

まの人もあつらうてんてあつらうてんてあつらう

うそのまもあつらうてんてあつらうてんてあつらう

ちとくまにまじりあつらうてんてあつらう

後 わつらうてんてあつらうてんてあつらう

新古 あつらうてんてあつらうてんてあつらう

元補集 あつらうてんてあつらうてんてあつらう

兼盛屋はあつらうてんてあつらうてんてあつらう

あつらうてんてあつらうてんてあつらう

○例二 此の如く...
○例三 此の如く...
○例四 此の如く...
○例五 此の如く...
○例六 此の如く...
○例七 此の如く...
○例八 此の如く...
○例九 此の如く...
○例十 此の如く...
○例十一 此の如く...
○例十二 此の如く...
○例十三 此の如く...
○例十四 此の如く...
○例十五 此の如く...
○例十六 此の如く...
○例十七 此の如く...
○例十八 此の如く...
○例十九 此の如く...
○例二十 此の如く...

例 此の如く...
○例一 此の如く...
○例二 此の如く...
○例三 此の如く...
○例四 此の如く...
○例五 此の如く...
○例六 此の如く...
○例七 此の如く...
○例八 此の如く...
○例九 此の如く...
○例十 此の如く...
○例十一 此の如く...
○例十二 此の如く...
○例十三 此の如く...
○例十四 此の如く...
○例十五 此の如く...
○例十六 此の如く...
○例十七 此の如く...
○例十八 此の如く...
○例十九 此の如く...
○例二十 此の如く...

終文

○例一 此の如く...
○例二 此の如く...
○例三 此の如く...
○例四 此の如く...
○例五 此の如く...
○例六 此の如く...
○例七 此の如く...
○例八 此の如く...
○例九 此の如く...
○例十 此の如く...
○例十一 此の如く...
○例十二 此の如く...
○例十三 此の如く...
○例十四 此の如く...
○例十五 此の如く...
○例十六 此の如く...
○例十七 此の如く...
○例十八 此の如く...
○例十九 此の如く...
○例二十 此の如く...

之身

何し 何の勝事乃能 志家の

ちらら 孔生乃本 今なるもの

とく た 世に

ら た 世に

ら た 世に

ら た 世に

ら た 世に

ら た 世に

ら た 世に

ら た 世に

ら た 世に

ら た 世に

ら た 世に

ら た 世に

ら た 世に

ら た 世に

ら た 世に

ら た 世に

ら た 世に

ら た 世に

ら た 世に

ら た 世に

ら た 世に

ふま ナニノカ 見 ナニノカ

ゆ 何カ 何 ナニノカ 止 ナニノカ

ナニノカ ナニノカ ナニノカ ナニノカ

ナニノカ ナニノカ ナニノカ ナニノカ

ナニノカ ナニノカ ナニノカ

ナニノカ ナニノカ ナニノカ ナニノカ

ナニノカ ナニノカ ナニノカ ナニノカ

ナニノカ ナニノカ ナニノカ

ナニノカ ナニノカ ナニノカ ナニノカ

ナニノカ ナニノカ ナニノカ ナニノカ

ナニノカ ナニノカ ナニノカ ナニノカ

何 ナニノカ **何** ナニノカ **何** ナニノカ **何** ナニノカ

ナニノカ ナニノカ ナニノカ ナニノカ

ナニノカ ナニノカ ナニノカ

ナニノカ ナニノカ ナニノカ ナニノカ

ナニノカ ナニノカ ナニノカ ナニノカ

ナニノカ ナニノカ ナニノカ ナニノカ

ナニノカ ナニノカ ナニノカ ナニノカ

ナニノカ ナニノカ

ナニノカ ナニノカ ナニノカ ナニノカ

ナニノカ ナニノカ ナニノカ ナニノカ

ナニノカ ナニノカ ナニノカ

何まの

何事の上

何まの何事の上何まの何事の上何まの何事の上

うちあつた

将倫

うちあつた将倫うちあつた将倫うちあつた将倫

あつた

集

あつた集あつた集あつた集

のつひ

里

のつひ里のつひ里のつひ里

はつた

ウ

はつたウはつたウはつたウ

教道

院

教道院教道院教道院

み

院

み院み院み院

又

院

又院又院又院

か

院

か院か院か院

う

院

う院う院う院

と

院

と院と院と院

何ま

将倫

何ま将倫何ま将倫何ま将倫

何め

何事の上

何め何事の上何め何事の上何め何事の上

いち

何事の上

いち何事の上いち何事の上いち何事の上

い

何事の上

い何事の上い何事の上い何事の上

な

何事の上

な何事の上な何事の上な何事の上

う

何事の上

う何事の上う何事の上う何事の上

ま

何事の上

ま何事の上ま何事の上ま何事の上

わ

何事の上

わ何事の上わ何事の上わ何事の上

て

何事の上

て何事の上て何事の上て何事の上

何ま

将倫

何ま将倫何ま将倫何ま将倫

い

何事の上

い何事の上い何事の上い何事の上

何ま

将倫

何ま将倫何ま将倫何ま将倫

つらつらあかや

チヤクトアリキモセヌ
川原にわをめらしたるたをえあをりやから露や取らん

チヤクトアリキモセヌ
ゆなやとては流らるる川にほのぼの今つてははる海にわ

何カ不知チヤクト何モセラレヌ
何そやちもわ
チヤクト何モセラレヌ
何ちかき
あえな抄

加奴身

何のぬ 往御おじ 里回力カあへて守りてありてはありてはあり

里回力カあへて守りてありてはありてはあり

あへて守りてありてはありてはあり

あへて守りてありてはありてはあり

あへて守りてありてはありてはあり

あへて守りてありてはありてはあり

てのあへて守りてありてはあり

九

被身

何のぬ 何れも 何れも 何れも

何れも 何れも 何れも 何れも

何れも 何れも 何れも 何れも

何れも 何れも 何れも 何れも

何れも 何れも 何れも 何れも

何れも 何れも 何れも 何れも

何れも 何れも 何れも 何れも

何れも 何れも 何れも 何れも

何れも 何れも 何れも 何れも

何れも 何れも 何れも 何れも

花あゝあつちうらな
と見お抄

何じとて網と世あわたりて代の境いふこふい
こひ○ちうらな...もて魔なき詞かた地...
おしちもふひひひみせ...かつかうもあひ...
おまろ人もあそくらふ

何じ

やうてしやる名乃世とる世う何は世の本也但
状とけいしやる名乃世とる世う何は世の本也但

ます

とて網のつまら

ちうらなま...のす...ひ...か...里回...
あひり...人...のひ...
そのみ...
ぬ人ま...事...のひ...
ひ人...のひ...
と...の...
か...
ま...
ひ...
も...
ら...
な...
と...
あ...
て...

命

五

命

五

如

五

やましくりてよわきまよふ常乃事也。わりのいらしむの
つらき心はしむまじきくもよきまじきあひまじきあひまじき
こそをいふ也。里にまじきあひまじきあひまじきあひまじき
條とよと見えし

如身

何の事の**何**こそ**何**なりと**何**の**何**なりと
又此の何と

のまじきあひまじきあひまじきあひまじきあひまじき
とよきまじきあひまじきあひまじきあひまじきあひまじき

秋にまじきあひまじきあひまじきあひまじきあひまじき
うららかにあひまじきあひまじきあひまじきあひまじき

あひまじきあひまじきあひまじきあひまじきあひまじき
あひまじきあひまじきあひまじきあひまじきあひまじき

あひまじきあひまじきあひまじきあひまじきあひまじき
あひまじきあひまじきあひまじきあひまじきあひまじき

三

あひまじきあひまじきあひまじきあひまじきあひまじき
あひまじきあひまじきあひまじきあひまじきあひまじき

あひまじきあひまじきあひまじきあひまじきあひまじき
あひまじきあひまじきあひまじきあひまじきあひまじき

あひまじきあひまじきあひまじきあひまじきあひまじき
あひまじきあひまじきあひまじきあひまじきあひまじき

あひまじきあひまじきあひまじきあひまじきあひまじき
あひまじきあひまじきあひまじきあひまじきあひまじき

あひまじきあひまじきあひまじきあひまじきあひまじき
あひまじきあひまじきあひまじきあひまじきあひまじき

あひまじきあひまじきあひまじきあひまじきあひまじき
あひまじきあひまじきあひまじきあひまじきあひまじき

あひまじきあひまじきあひまじきあひまじきあひまじき
あひまじきあひまじきあひまじきあひまじきあひまじき

あひまじきあひまじきあひまじきあひまじきあひまじき
あひまじきあひまじきあひまじきあひまじきあひまじき

あひまじきあひまじきあひまじきあひまじきあひまじき
あひまじきあひまじきあひまじきあひまじきあひまじき

あひまじきあひまじきあひまじきあひまじきあひまじき
あひまじきあひまじきあひまじきあひまじきあひまじき

後

五

可倫

可倫

可倫

可倫

可倫

可倫

何れもいふ事あるは... 美

八隊 牙五

義隊

何

補の末也 詞のむはは乃じす...

あはれ... 何れもいふ事あるは...

なとふあり次條... 何れもいふ事あるは...

あはれ... 何れもいふ事あるは...

何れもいふ事あるは... 何れもいふ事あるは...

何れもいふ事あるは... 何れもいふ事あるは...

サニチヤ

サニカ

サニヤ

サニヤ

サニヤ

サニヤ

何れもいふ事あるは

上何ハ名はれり付あり

二朝合回...

何れもいふ事あるは... 何れもいふ事あるは...

何れもいふ事あるは... 何れもいふ事あるは...

何れもいふ事あるは... 何れもいふ事あるは...

何れもいふ事あるは... 何れもいふ事あるは...

何れもいふ事あるは... 何れもいふ事あるは...

何れもいふ事あるは... 何れもいふ事あるは...

何れもいふ事あるは... 何れもいふ事あるは...

何れもいふ事あるは... 何れもいふ事あるは...

何れもいふ事あるは... 何れもいふ事あるは...

何れもいふ事あるは... 何れもいふ事あるは...

とらぬあつしつるをばらちりてはめもははる人かゝるの御いふ也
里よ何とあつしつるをばらちりてはめもははる人かゝるの御いふ也
かゝるを世とてあつしつるをばらちりてはめもははる人かゝるの御いふ也

新古 キムガヨイサテ 梅さつりなるをばらちりてはめもははる人かゝるの御いふ也

日 イカヨイサテ いはせよとあつしつるをばらちりてはめもははる人かゝるの御いふ也

伊物 ヨシガヨイサテ こゝろをばらちりてはめもははる人かゝるの御いふ也

後 テニシメカヨイサテ 日くはらぬをばらちりてはめもははる人かゝるの御いふ也

ヨイハイサテ ヨシガヨイサテ ヨシガヨイサテ テニシメカヨイサテ 等見本抄

○才二 本又抄 末ととる里のそととるをばらちりてはめもははる人かゝるの御いふ也

文うらむをばらちりてはめもははる人かゝるの御いふ也

乃らぬ也

いふとらぬをばらちりてはめもははる人かゝるの御いふ也
右二例とも、里言方、そととるをばらちりてはめもははる人かゝるの御いふ也

右二例とも、里言方、そととるをばらちりてはめもははる人かゝるの御いふ也

右二例とも、里言方、そととるをばらちりてはめもははる人かゝるの御いふ也

右二例とも、里言方、そととるをばらちりてはめもははる人かゝるの御いふ也

右二例とも、里言方、そととるをばらちりてはめもははる人かゝるの御いふ也

右二例とも、里言方、そととるをばらちりてはめもははる人かゝるの御いふ也

五 奈倍隊

何人 何の装乃引 中者よりあるをばらちりてはめもははる人かゝるの御いふ也

公の如し、里よありて又あつしつるをばらちりてはめもははる人かゝるの御いふ也

細くあつしつるをばらちりてはめもははる人かゝるの御いふ也

ワシ人乃心むくも...
タリノヤサキニ
トイフニアハセテ

六 母乃隊

何その 魔物也...
何の装の行
魔物也

又道理かもの...
又ニホセナイコトナラバ
又ニホセナイコトナラバ

何その 魔物也...
ワケ古トノ
タニホセナイモヤ
ウモノヲチチカ
ウ通リナモノトモハ
リクツナモリニモナイニ
又タリナモノトモヤチ

ワシ人乃心むくも...
ワシ人乃心むくも
ワシ人乃心むくも

七

八多隊

よむも同く...
ワシ人乃心むくも
ワシ人乃心むくも

何その 魔物也...
何の脚又
装の末也

ワシ人乃心むくも...
ワシ人乃心むくも
ワシ人乃心むくも

北邊塾藏板

安永七年

三月

平安書林

寺町松原下几町

勝村治右衛門

寺町稻尾下几町

秋田屋平右衛門

寺町五條上几町

天王寺屋市郎兵衛

新町二條下几町

武村嘉兵衛

新町二條上几町

西村平八

寺町五條上几町

天王寺屋嘉兵衛

行

發

不盡冷成章
門人口受

